



ジュゴン Vol.90

ちゃんぷるニュース

SDCC 2017. 1. 24
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・最高裁不当判決と今後の闘い
- オスプレイ墜落と返還式典
- 世界自然遺産登録と IUCN 現地調査
- 4/5 新年の辺野古大集会
- 政府交渉・IUCN 署名提出
- 6/7 わんさか通信★ジュゴンのわ
- 活動報告



2017年が明けました。我々SDCCにとって、またご支援頂いている皆さんにとって幸せな1年でありますよう、心の龍宮神に祈念しています。年明けは、嘉陽のオジイがお亡くなりになったばかりなので、辺野古の浜カウントダウンコンサートは無しでした。また新基地建設阻止勝利を祈念する恒例の初起こし、「カジャディ風」の歌三線と踊りも無しでした。

昨年の初起こしでは、ブレない姿勢で踊る新里米吉氏の写真が新聞報道されました。そのおかげもあってか、彼は県議選挙で中頭郡区トップ当選を果たし、念願の沖縄県議会議長になりました。私は米吉の後援会長を務めましたが、全ては、安倍政権と対峙して臨む翁長雄志沖縄県知事と、知事を支える沖縄県議会与党の結束の為に腐心した1年であったと言えます。

年頭の挨拶

しかし、辺野古・高江の闘争現場では、米軍北部訓練場の1部返還を歓迎するとして翁長知事の言葉じりや、キャンプシュワブ陸上部建築物の許可問題に不満を持ち、また最高裁判決に従うとして翁長知事の判断に不信感を煽られた人々が、県庁に押しかけて騒ぐなどしました。しかしそれも、オール沖縄の強い結束力と浄化力で、収まりました。そして、元日の未明から辺野古の浜に集まった人々は、稲嶺進名護市長を中心に初日の出を迎え、静かに祈りました。

そして私は、11日に宮古島に入り、奥平一夫市長候補の総決起大会で応援ライブを行い、必勝を強く訴えました。9日には翁長知事が応援に入ったこともあって、また安慶田副知事が出席したこともあって、総決起大会は大いに盛り上がりました。先ず、宮古島市長選を勝利し、続く浦添市、うるま市の市長選勝利への流れを生まねばなりません。結果は辺野古高江、山原の世界自然遺産の保全とジュゴンの保護に影響します。そして自衛隊という日本軍による最終的琉球処分を許すか許さないかの闘いに影響します。

どうか力を結集して下さい。安倍政権が、国民を一億玉砕の道に誘導していることは間違いありません。
海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



宮古島市長選の奥平候補総決起大会で（本面）



辺野古の浜で初日の出を迎える人々

情勢

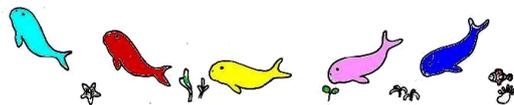
新署名で辺野古・高江の豊かな生物多様性を守ろう

最高裁は昨年未の12月20日に、沖縄県知事が国交大臣の指示に従わないことは違法だと判断しました。これは1999年地方分権改革の「国と地方は対等である」を否定するものです。国が自治体に委託した事務（法定受託事務）について自治体の処分が違法であると内閣が判断すると、**なんらの制約もなく**是正指示が出せるならば「国と地方が対等である」ことは損なわれます。司法が内閣（行政）の不正な司法手続きに与（くみ）することを「政治的司法」と批判されていますが、この最高裁判決は政治的司法であり、全国各自治体の「地方自治」に影響を及ぼすことになります。

翁長知事は最高裁判決を受けて自ら行った埋め立て承認取り消し処分を取り消しました。辺野古新基地建設阻止に向けて、埋め立て承認「撤回」にむけた準備を始めていると報道されています。承認「撤回」は埋め立て承認後に事業者が行った行為が条例規則に反しているか否かを県知事が判断するものです。埋め立て承認の条件である「留意事項」がそれに当たります。安倍内閣は最高裁判決をふまえて、海底ボーリング調査やオイルフェンスの設置を急いでいます。岩礁破壊許可の期限が3月末に切れるからです。サンゴや海草藻場への影響ははかり知れません。沖縄県は説明責任を果

たして、県民とともに闘ってこそ承認「撤回」が勝ち取れるのです。沖縄県の姿勢が問われています。

20年にわたる辺野古新基地建設の闘いを世界は注目しています。IUCN（国際自然保護連合）は4度の勧告・決議を上げるなど、沖縄の生物多様性の保全を日本政府に強く求めています。国連人種差別撤廃委員会は2度にわたり「沖縄における軍事基地の不均衡な集中は差別」と批判しています。沖縄県民と環境団体の要求で、日本政府は今年2月に南西・琉球諸島の世界自然遺産登録を申請します。2018年登録審査に向けてIUCNはUNESCOの依頼で今年7月ごろに現地調査に入ります。IUCN調査団は4度のIUCN勧告・決議をふまえて調査しなければなりません。昨年12月沖縄県議会で「IUCNによる検証作業が行われる場合は可能な限り協力する」との答弁を副知事から引き出しました。IUCNメンバーである私たちは沖縄県や環境団体と協力してさらに頑張らなければなりません。正念場の一年です。日本政府の世界自然遺産登録申請と並行して、新署名「沖縄のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを守ろう」を始めます。IUCNの現地調査を後押し、国際世論に働きかけることで日本政府に圧力をかけましょう。



オスプレイ墜落事故と米軍北部訓練場の返還式



12月13日夜、ジュゴンが生息する名護市東海岸の安部沿岸に米軍輸送機オスプレイが墜落、大破しました。16日夜、安倍首相は「事故原因の究明と安全性の確認」を飛行再開の条件にしましたが、米軍は事故原因の究明もせず、12月19日午後オスプレイの飛行を再開しました。人命より軍事を優先する安倍内閣を、翁長県知事は「県民無視」「日本政府は当事者能力がない」と厳しく批判しました。なぜ、訓練再開を急いだのでしょうか。22日に北部訓練場の一部返還式があるからです。また、「墜落ではなく不時着だ」と世論誘導したように、オスプレイの構造的欠陥が焦点になることを恐れたのです。

22日、政府主催の返還式が名護市でおこなわれました。菅官房長官は「返還は本土復帰後、最大規模の約4千ヘクタール」と「沖縄の負担軽減」を強調しましたが、翁長県知事は「沖縄県民を日本国民とみていない」と欠席。同日、名護市で行われた「オスプレイ墜落事故に抗議する集会（オール沖縄主催）」に参加しました。北部訓練場の返還される地域は「ほとんど使用できない地域」（米海兵隊戦略ビジョン2025）で、東村高江集落周辺に6か所を新設するなど、沖縄の負担軽減ではなく基地機能強化を狙ったものです。

（事務局 蛭川義章）



ヘリパッド建設「懸念と要請の手紙」送付の狙い

2016年12月1日、沖縄本島東村高江のやんばるの森で日本政府によるヘリパッド建設が強行されるなか、SDCCを含む41の団体は、在日米軍と米政府に対して「懸念と要請の手紙」を送付しました。これは、やんばるの森や辺野古・大浦湾の貴重な自然を壊し、沖縄の更なる軍事化を進める日米両政府に対して、国際社会を巻き込んで対抗する私たちの取り組みの一つです。

手紙の論点は大きく分けて3つ。1) ヘリパッド建設やそれに伴う様々な人権侵害、そしてオスプレイ等による訓練は、やんばるの森の世界自然遺産登録の妨げになる。2) 在日米軍/米国は、世界遺産条約、世界遺産条約運用指針、米国国家歴史保存法（の精神と意図）に基づいて、建設や航空機訓練が遺産登録に影響しないかを検証せよ。3) 在日米軍/米国は、検証が終わるまで工事をさせるな、です。

SDCCをはじめ環境団体はこれまで、日本政府に対して、ヘリパッド建設と辺野古新基地建設と世界自然遺産登録は両立しない、と主張してきました。今回の手紙は、当事者でありながら、ヘリパッド建設や北部訓練場と世界自然遺産登録の関係について言及を避けてきた米軍/米政府に対して、私たちの主張を伝え、条約や国内法に基づいた具体的な対応を求めたものです。

残念なことにはヘリパッド建設は強行されてしまいました。しかし、やんばるの森の世界遺産への登録の手続きも着々と進んでいます。2016年2月には日本政府が世界自然遺産暫定リストにやんばるの森（沖縄本島北部）を記載し、この2017年2月には「推薦」の手続き、そして2017年中には世界自然遺産登録における諮問委員会であるIUCNによる現地調査が行われます。

非常に矛盾した状況ですが、言い換えれば、やんばるの森が有する人類にとっての「普遍的価値」を日本政府は無視することが出来ないということです。またその背景には、やんばるの森の世界自然遺産登録を求めたIUCNの2000年の勧告があったことも忘れてはならないでしょう。

今後、世界自然遺産登録手続きにおいてステークホルダーによる協議が行われていきます。ぜひIUCNの協力を受けながら、この過程を、やんばるの森の世界遺産登録に向けて障害となりうるヘリパッド建設、オスプレイ訓練、辺野古新基地建設を日米両政府に再考させていく機会にいきましょう。そのために多くの人々や国内外の団体や機関に「懸念と要請の手紙」を読んでもらい、協力をお願いしていく必要があります。IUCNのメンバーであるSDCCとして積極的に取組んでいきましょう。



手紙（英語原文、和訳）はこちらから

<http://blog.goo.ne.jp/sdcc/e/d9ca081b93a56fd87ed4433f1bc95cf6>

（沖縄 吉川秀樹）

沖縄では連日、基地に関する報道がなされています。オスプレイ飛行再開では号外も出ました。



12/19 琉球新報号外



12/15 沖縄タイムス
名護市安部の海岸に墜落し大破したオスプレイ



昨年12月21日那覇高裁支部前の公園で、最高裁判決に抗議する集会がオール沖縄主催で開催されました。参加者700人（主催者発表）。オール沖縄共同代表・稲嶺進名護市長から「判決は、国の言い分をコピーした高裁判決と同じ」「闘いはこれから。翁長知事とともにあらゆる手段で阻止するために頑張る」と力強いアピールがありました。

辺野古・高江の弾圧を許さない!

各地のアクションに参加☆

決意も新たに辺野古ゲート前早朝行動を再開

沖縄

2017年1月5日、今年初の辺野古ゲート前早朝大行動。午前7時からの集会に向けてまだ薄暗い午前6時30分にはすでに多くの市民がメインゲート前で基地から出ようとする米軍車両に立ちはだかっていた。

これに対処できるだけの機動隊の配置がなされておらず、軍警もなすすべなし。7時からの工事用ゲート前での集会に移動するまでの30分以上にわたって米軍車両は基地内にくぎ付けされた。県民を甘く見たものだ。集会が始まるころには200人近くが集まり、雨の中、ピーク時には400名近くになった。安倍政権への怒りと工事再開強行への危機感を胸に、年明けの辺野古ゲート前へ早朝から気持ち新たに結集した。



集会には、衆参両議員ほか県議、市町村議の姿も。稲嶺市長は「今年は正念場を迎える。当たり前前の民主主義を取り返す闘いが沖縄から発せられている。」「いろいろな主張があるが、新基地をつくらせないという1点で力を合わせていきたい。」と決意を表明。

議員、行政、県民市民がそれぞれの立場からがっちりスクラムを組んで新基地建設阻止まで頑張り抜こうと誓い合った。

先日もゲート前とトイレの送迎をしていると、車中でのある参加者同士が話していた。「早く知事には承認の撤回をしてもらいたいし、要請も必要。」“トランプ政権への申し入れも強力にしてほしいと思う。しかし、翁長さん一人の闘いではないし、そうしてしまったらダメ。もっとみんなが現場で、また出来ることをやらないとダメ。”“もっと草の根を広げないとね。誰かに闘いをゆだねるのは『急げ者の論理』。”早すぎた「承認取消の取り消し」や遅い「承認撤回への動き」を前に、おそらく自分自身に、また同乗された同じ地域島ぐるみ組織自身に言い聞かせておられるように思った。

(沖縄 高垣喜三)



東京

11月20日 最高裁前行動に参加して

9月の福岡高裁那覇支部判決を不服とし、沖縄県が上告した最高裁での審理を前に、11月20日最高裁前で「止めよう!辺野古埋め立て」のキャンドル集会が、国会包囲実行委員会主催で行われました。伊波洋一参議院議員、オール沖縄会議の志喜屋事務局長、玉城直野湾市議、島沢南城市島ぐるみ会議次長が、それぞれ「高裁判決は、民主主義と地方自治を否定するもの。最高裁で公正公平な弁論が出来れば負けることはない。辺野古ノーは、何度も民意が示している」と発言。約400人の参加者は、ペンライトをかざしウエーブし、「口頭弁論をおこなえ」「高裁判決を破棄しろ」と声を挙げました。

翌日は、朝の8時から最高裁前で職員へのピウ撒き、10時から署名提出、12時からは昼休み集会を行い、オール沖縄会議共同代表の高里鈴代さんやヘリ基地反対協の安次富さん、伊波洋一さんなどが、「最高裁は、事実審理と口頭弁論をおこない、公正・中立の判決を」と訴え、辺野古に新基地を作らせないために闘いぬくことを確認しあいました。(首都圏 宮城詔子)

大阪

沖縄に基地はいらない 「12.10 おおさか総がかり集会」



大阪では、扇町公園に4000人が集まり、伊波洋一さんが連帯のあいさつをされました。SDCCは、「標的の村」上映会で知り合った、安保関連法に反対するママの会@すいせつのみなさんと一緒に基地NOをアピールしました。

11月25日IUCN署名を提出しました。🌱🌱🌱

11月25日政府交渉で、国際署名を82カ国2201筆(うちオンライン署名は688筆)、国内署名を7102筆(累計で10万5284筆)提出しました。9月ハワイでのIUCN(国際自然保護連合)決議「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」採択をふまえての交渉でした。

防衛省は平成28年度予算に計上されている土砂採取搬出分816億円について、外来種対策費が含まれているのかには一切答えませんでした。外来種対策費が予想以上にかかると見て公表をためらっていると思われます。高江問題では「オスプレイ訓練は環境に影響を与えていない」と居直りました。11月11日に沖縄県、国頭村、東村が要請した環境アセスの見直しも拒否しましたが、追及でN1、G、H地区のヘリパッド建設終了後に自主調査の事後調査をおこなうとことを明らかにしました。事後調査で、「オスプレイ訓練の低周波調査」と「9月から繁殖する絶滅危惧種カラスバトの調査」の追加を求めました。

環境省交渉では、私たちのIUCN決議に棄権した理由を求めると、外来種対策室は「辺野古の問題に恣意的に関連させた決議なので」と、外来種侵入を防ぐ職務を放棄する発言に終始しました。また、今年2月のヤンバルの森を含む世界自然遺産登録申請とIUCN現地調査をめぐる議論をしました。米軍はオスプレイ配備のための環境レビュー(2012年)にヤンバルの森を世界

自然遺産に登録することを一切書いていません。日本政府が2003年から世界自然遺産の登録検討を始めたのに、米軍が明記していないことは世界遺産条約の無視であり、米国国家歴史保存法に反することになります。この点について、環境省は返答に窮して黙ってしまいました。また、国立公園の指定対象が特別保護地域と第1種保護地域に限られ、ヘリパッド建設地のG、H地域にはノグチゲラの営巣林が約30ヶ所あります。環境省はこのまだけ模様の保護区で「生物多様性の保全は大丈夫です」と空々しく回答しました。環境省には責任を持って仕事をするを求めたいと思う交渉でした。(事務局 蛭川義章)



「高江オスプレイ・パッド、辺野古新基地建設を許さない!東京集会

12月10日、日比谷野外音楽堂で「高江オスプレイ・パッド、辺野古新基地建設を許さない!東京集会~最高裁は沖縄の民意にこたえる判決を!~」が開催されました。基地の県内移設に反対する県民会議、「止めよう!辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会、戦争させない・9条壊すな!総がかり実行委員会の三団体の主催で、寒風の吹く中3,900名が参加しました。

県民会議の仲本興真事務局次長は「オスプレイ・パッド建設は辺野古新基地と連動し、北部訓練場の機能弱体化になる。沖縄の選挙で民意が示されているのに、『辺野古が唯一』で思考停止した政府には未来は託せない。多くの人を味方に『オール沖縄』『オールジャパン』で頑張ろう」と訴えました。

武田真一郎成蹊大学教授は、福岡高裁那覇支部判決を批判。「前知事の承認を対象とした審査は誤りで、現知事の取り消し処分を対象にした場合、逆の結論が出る可能性が高い。司法権を逸脱して『辺野古が唯一』と決め

つけ、沖縄県民に基地負担を強要した判決は最高裁で破棄されるべきだ」と訴えました。

参加者は、銀座デモで沿道に向かってアピールしました。(首都圏 三村昭彦)



大阪自然史フェスティバルに参加してきました。

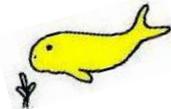
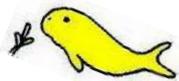


こういう活動は多くの人達と関わることができるチャンス！来年も是非続けていきたいです。（関西 上田千鶴）

昨年「バードフェスティバル」として行われていた大阪自然史博物館のイベントが今年は「大阪自然史フェスティバル」として11月19日・20日開催されました。私たちも、にじゅうまるプロジェクトの方々と一緒に毎年参加していますが、今年はお天気にも恵まれて多くの来場者があり、私たちのブースにもひっきりなしに立ち寄っていただきました。

今年他イベントとも重なり、スタッフ不足で多くの方とゆっくりお話をすることができなかったのが残念です。またじゅごん着ぐるみでたくさんの人に声かけをするチャンスだった道ジュネー（練り歩き）も思ったようにできませんでした。

今年も昨年同様ジュゴンのことを知ってもらうためにジュゴンクイズをしましたが、毎年少しずつ「辺野古」のことが話題になっていることもあって、知名度は上がっているように思いましたが、若い人たちにはまだまだ認知度は低くて、アピールする良い機会となりました。



① わんさか通信 ★ ジュゴンの ①

映画「標的の島・風かたか」

雨風の吹ちん渡るこの浮世
風かたかなとて産子花咲かさ
(雨風が吹いても渡るこの世界に
風よけになって愛児の花を咲かせたい)

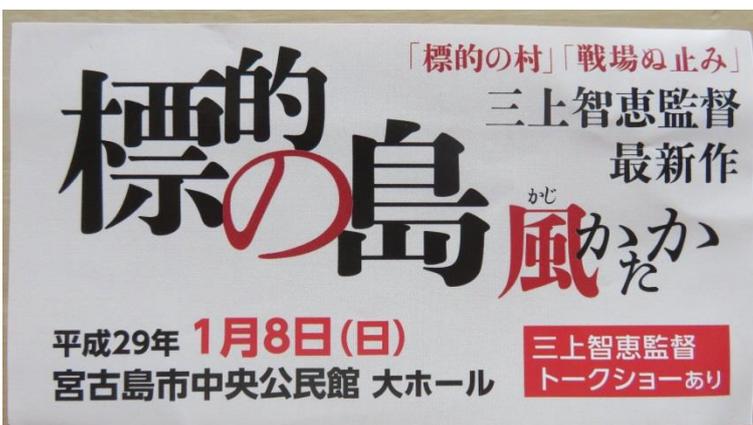
昨年元米兵による20歳の女性強姦殺人事件への抗議集会での古謝美佐子さんの歌で始まる映画「標的の島・風かたか」。この出来事は思い出すだけで胸が痛み涙が出る。守っ

てあげられなくて、風よけになれなくてごめんね。

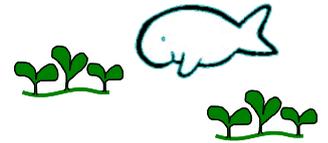
三上智恵監督の最新作は冒頭のこのシーンに全ての思いが込められている。映画をみながら何度も「ごめんね」心でつぶやいた。二度と繰り返してはいけない事、もう私たちが終わりにしなければ！

三月から上映スタートの映画を宮古島で先行試写会を開いたのは、今月22日に市長選が行われる今だから、ミサイル配備の自衛隊を受け入れるかどうかの瀬戸際だからだ。

容認2名、曖昧1名、阻止1名の四つどもえの戦い。なんでこんな大事な選挙にオール沖縄会派で分裂するのか理解し難いが翁長知事が阻止の候補を支持したことが希望の光だ。（中縄・小平）



政府交渉に参加して



11月、政府交渉ではIUCNで集めた国際署名を提出しました（5面に記事）。参加者からの感想を載せました。

昨年11月25日、防衛省と環境省への交渉に初めて参加させて頂きました。防衛省では、敷地の広さや建物の立派さに驚きました。そして、軍国主義を感じさせるパフォーマンス(?)が駐車場で行われていることにショックを受けました。

交渉では、予算の中に外来種対策費が含まれているかとの問いに、省側は最後まで答えませんでした。既に計上されている予算の内訳を公表しないということが、平然と行われているのです。

環境省では、9月のIUCN会議の際に集めた国際署名を手渡しました。環境省での交渉で使用された部屋は、防衛省での立派な会議室とは異なり、間仕切りをした簡易なものだったため、他の部屋からも声が聞こえてきました。うるさかった半面、頑張っている人達が他にもいるのだと、嬉しく感じました。

私自身、今回の交渉には貢献できませんでしたが、自分が動くことによって初めて知る事実があり、行動することの大切さを実感しました。（首都圏 奥田一美）

11月25日、対政府交渉に参加しました。

防衛省との時間はたった30分。整備計画局等の官僚達は、埋立土砂の外来種対策は適当な時期に、高江のオスプレイ配備に係る環境調査は事後に実施するなどやる気のない回答。最初から国民の声は聴かない、批判は浴びたくないという姿勢が見てとれました。

環境省との交渉は1時間。権限がないのと、環境アセスについては口出しをしない。せっかくやんばるの森の世界自然遺産登録を目指すのに、具体的な破壊行為については対策をとろうとしません。責任逃れと感じました。

政府交渉は、上司の顔を窺い、はじめに基地建設ありきで机上の仕事をしている官僚達に、市民の生の声を聴かせ国の姿勢を追及する貴重な機会だと思いました。

これからもみんなで声を上げ、政府にIUCN決議を履行させて強引な新基地建設にストップさせましょう！

（首都圏 蟹江由美子）

環境保全と市民生活を無視した基地建設は許せない！



報告



2016年11月22日『枚方市民の会』で出張授業

平和が一番！と活動されている枚方市民の会からの依頼で「2016年IUCN（国際自然保護連合）第6回ハワイ会議参加報告」の出張授業をしてきました。

この国際会議では4度目の勧告が採択され、SDCCメンバーと共に稲嶺名護市長も参加され意義あるものになりました。この成果を活かす今後の取り組みは、現場を支え、

翁長県政を支え、展望が見えるものとなるはずですが、だから多くの人と共有したいと思っていました。

出張授業では、辺野古・高江の近況を伝え、ハワイでの取り組みを報告。国際署名を集め地元NGOと交流し、草の根で海外の人々をつなげたこと、着ぐるみジュゴンで、折り紙で、フラを踊ったりの楽しく元気なパフォーマンスは世界にも通じたことなどお話ししました。

少人数でしたが「遠くに感じていた国際会議が身近になった」「報告集を配るね。議員さんとの学習会も考えてみるわ」「枚方市と名護市は姉妹都市、支援を考えていきたい」と前向きな感想が聞かれ充実した場になりました。地域からの取り組みに期待したいです。

『出張授業』はどこへでも出向きますので、どうぞ声をかけてください！（関西 池側恵美子）

<首都圏>

- ・4/21 (金) 第17回SDCC総会 (予定)
- ・4/21 (金) 政府交渉 (予定)
- ・4/22 (土)-23(日) アースデイ東京 @代々木公園
例年10万人以上の来場者でにぎわうビッグイベント。
ブース出展して辺野古をアピール! 当日スタッフ大募集☆

《 今年の取り組み 》

- ・4/15 (土) じゅごんでトレイン!
環状線に乗り込み、着ぐるみジュゴンで楽しくアピールします
- ・5/20(土)-21(日) ジュゴンの海の写真展(牧志治さんの写真)
日本一長い天神橋筋商店街のスペースでの写真展。たくさんの方に
辺野古の海のすばらしさを知ってもらえたらと思います。

<関西>

じゅごんの里ツアー (辺野古スタディツアー)

今年も、6月末~7月はじめに辺野古・犬浦湾を訪問するジュゴンの里ツアーを開催します。辺野古や沖縄の基地の現状を知り、地元の方々と交流し、やんばるの森や海の自然を満喫、沖縄料理も楽しむ予定です。

4月中旬に募集開始します。

ぜひ、辺野古の海のすばらしさを体感してください。



昨年のツアー @辺野古の浜

じゅごん茶話会、今年も続けます!

-関西からのご案内-

月1回ほぼちと京橋事務所で開いています。いろいろやってみたいなあ~と思っています。そのうちの1つ、沖縄のガンジーと称された伊江島の阿波根昌鴻さんの平和運動を学びたいと準備しています。



『平和の武器は学習』です。そして、辺野古、高江に思いを寄せてゆんたく(おしゃべり)しながら、時には三線の練習もして、一人一人できることを見つけて行けたらと思っています。お茶でも飲みながらゆっくりお話ししましょう。どうぞ気軽にご参加ください。



来てね☆

※2/16 (木)、3/23 (木) 14時~を予定しています

映画『いのちの森 高江』上映会&お話し会

いのち豊かな森を守るのは私たち人間の使命です—
オスプレイにおびえ、怒り、闘う 高江の記録(約65分)
監督: 謝名元 慶福 語り: 佐々木 愛
制作「いのちの森高江」制作委員会

【日時】2月25日(土) 13時半開場
14時上映スタート 16時半終了予定
【場所】エルおおさか 南75(南館7階)
【参加費】500円

★映画を観たあと、感想などゆんたく(おしゃべり)し、ジュゴン保護キャンペーンセンターから今後の取り組みを報告します



新署名「沖縄のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを守ろう」にご協力を!

昨年9月IUCNハワイ会議で「島しょ生態系への外来種の侵入経路管理強化」を求める決議を採択しました。2000年、2004年、2008年に続く4度目の決議です。日本政府は環境団体や地元住民の要求で「やんばるの森」などの2018年世界自然遺産登録を進めています。IUCNがUNESCOの依頼で、今年7月ごろには調査のため来日します。(詳しくは2面情勢をご覧ください)

安倍内閣に提出する署名項目は以下の通り、第1次締め切りは11月15日です。

- ①絶滅危惧種である沖縄のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保全計画を策定すること
- ②辺野古新基地建設を中止すること。高江ヘリパッドへの米軍輸送機オスプレイ配備を中止すること
- ③沖縄への外来種の侵入経路の管理を強化すること



新署名にご協力ください

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.90 2017年1月24日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店
口座番号 普通 8159084

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!